

# 水資源の大切さを出前授業

## 津田沼小で市インフラ協議会

習志野市インフラ協議会が初めて企画した「出前授業」が7月11日と12日、津田沼小学校で4年生を対象に行われた。

市内の建設・建築士事に携わる設備業者が集まるインフラ協議会のメンバー

が、環境について考える学習の一つとして、水の大切さやトイレの仕組みを楽しくみながら学べる授業を提案し、TOTO株式会社の協力で実現した。

授業ではまずTOTOの講師から、生きる上で欠か



児童たちはペットボトルの中にできた渦によって、水が勢いよく上から下へと流れる様子を観察した



特別に設置された透明の排水管の中、水の流れに乗っていく模型を見守る児童たち

せないすぐに使える水が、地球上では全体の0・01%しかないことを説明されると、児童たちは一斉に驚きを示した。その貴重な水を大切にしながら、いかに少ない水で便器の汚れを落とせるかの工夫が、最新の機器の利点を紹介しながら説明された。

節水のための工夫の一つは便器の表面の特殊タイ

ル。別のタイルと触った違いを感じたり、鉛筆で何か書こうとしても書けなかったタイルが、汚れをつきにくく落としやすくするのを知った。

水の出るところの工夫では渦(うず)を起こし、水を素早く流すことで汚れを落とすことが「ペットボトルネード実験」で示された。

児童たちはつなぎ合わされたペットボトルの中のビーズが、渦ができて中心に集まり、少ない水でも一気に流れることを実感し、映像によっても、汚れをつきにくくし、強い力で引き込まれる様子が確認された。

授業の後半はインフラ協議会の岩井健会長、寺田良一副会長らが講師となつて、特別に設けた透明の排水管を通して、便器から水を流す「排水実験」が行われた。児童たちは流される模型の様子を見守り、少し

の勾配を作ること、水の流れが妨げられることも観察した。貴重な水資源と排水施設について考える機会となり、児童は下水道を作る費用、下水がどのように処理されるかなどをきかんに質問した。

普段の授業だけでは学ぶことができない各分野の専門家による出前授業での体験は、学習意欲を高めるだけでなく、社会の一員として考え、行動を起こし、広い視野や考え方を生み出すきっかけになるという魅力がある。

岩井会長は「子どもたちの笑顔が最高で、達成感がありました。社会貢献になると企業からは資材の提供もあり、設備業者だけでなく、様々な分野があるので、授業の幅が広がる可能性があると感じました。建設業界にも興味を持ってもらいたい」と語った。